

<ジブチ事業> 「マルカジ難民キャンプへ日本国大使が訪問」



ICAN ジブチ事務所
Helen Wangui Chege
～プロフィール～
大学卒業後、2年間ナイロビの病院にカウンセラーとして勤務し、2018年12月より現職。

イエメンからの難民を中心とするマルカジ難民キャンプは、ジブチ北部に位置しています。アイキャンはイエメン紛争激化後の2016年からこの難民キャンプで活動しています。難民キャンプ内での子どもの保護に携わる活動を充実させるために、外務省「日本NGO連携無償資金協力」を通して、2018～2019年にかけて「子どもの保護センター」と「多目的センター」の建設に加え、以前からあった「子どもの広場」の整備を行いました。3月2日には、在ジブチ日本国大使がマルカジ難民キャンプを訪問し、これらの施設と活動の様子を視察されました。

視察は、子どもたちの利用が最も活発な夕方に合わせて行われ、実際に施設が有効に利用されている様子を見ていただくと同時に、使用状況や裨益効果等を説明しました。まず、「子どもの保護センター」では、子どもや保護者へのワークショップやカウンセリングの他、「子どもの広場」の活動を支える青少年ボランティアへの研修等、子どもに関わる様々な活動を行っています。建設前は特に、プライバシーに関わる相談事に適切な場所がなく、子どもや保護者の悩みを聞く環境が不十分だと感じていたため、プライバシーの確保により、人々が悩みを吐き出せる場所ができたことは、とても大きい変化でした。その他、子どもたちの状況を把握し、悩みへの対応策を分析するために、家庭訪問も実施しており、昨年実施した家庭訪問件数は353件でした。大使はその件数の多さにも驚か

れていました。次に、「多目的センター」は、子どもたちのサッカー等の遊び場として利用される一方で、結婚式や集会等の行事のために、老若男女問わず人々が集まれる場になっています。夏には気温が45度以上にもなり、砂嵐が吹き荒れるジブチにおいて、屋根付きの広いスペースは人々から重宝されています。大使からも、「日本の協力で建設された子どもの保護センターが子どもにとって重要な場所になり、多目的センターが



難民コミュニティ全体の中で大切な役割を果たしていることは大変嬉しい。」とお言葉を頂戴しました。

アイキャンでは、マルカジ難民キャンプに住む人々の環境がより良いものになるよう、日々活動しています。今後も、子どもたちやその家族に寄り添い続け、アイキャンの活動を通して、子どもたちには様々な能力を伸ばし、自信をつけてもらいたいです。同時に、子どもの中でも特に、孤児や家族と離れて暮らしている子どもを守るようなコミュニティづくりも進めていきたいと思っています。

ある日のスケジュール

- 8:00 カウンセリング状況の確認
- 9:00 難民キャンプ内で家庭訪問・子どものカウンセリング・評価等
- 14:00 UNHCR 担当者とは打ち合わせ
- 15:00 子どもの広場の活動
- 17:00 帰宅

イエメン事業

3月/タイズ・アルホデイダ(イエメン)

イエメン国内2つの州での食糧提供



イエメン西岸地域のタイズ州及びアル・ホデイダ州において、計2,947世帯への食糧提供を実施しました。また、提供後には事後評価を行い、提供前と比べてどのように生活が変化したか確認しました。タイズ州の事前調査では「友人又は親戚に食糧を借りたり、助けてもらっている」「1日の食事回数を減らして過ごしている」と回答した人々の生活が、食糧提供後には他者に頼らず1日3食食べられる生活へと大幅に改善されました。

日本事業 (長野・自然災害事業)

3月21-23日/長野

地域住民・ボランティア・他団体と連携した活動



3月の3連休には、総勢200名を超える様々な方々(地域住民、ボランティアさん、他団体等)と協力し、6軒の家屋の修繕を行いました。その他、アイキャンの事務所を物資提供や「子どもの広場」の会場として他団体へ提供したことにより、

住民やボランティアさん等、みんなが集まって活動できる場を作りました。参加者からは、「こうやって、ボランティア活動ができるのはアイキャンのおかげです。」等の声を頂きました。

フィリピン事業 (マニラ・路上)

3月/マニラ(フィリピン)

保育園にて栄養改善のための給食活動を実施



3月2～9日(土日を除く計6日間)に、トンド地区の保育園において延べ84名の栄養不良の子どもを対象に給食活動を行いました。この活動はアイキャンスタッフの他、地域のボランティアさんが主体となって行っています。子どもの母親で

あるガロードさんは「経済的な理由で栄養のバランスが取れた食事を準備できないので、この給食活動には感謝しています。」と話してくれました。

能力強化事業 (訪問受け入れ)

3月18日/岐阜・愛知

スカイプによる訪問受け入れ



学生向けフリーペーパー「あけぼのスポット」の編集部員である岐阜東高校の生徒に対し「中高生が参加できるイベント」をテーマに、街頭募金やSDGs 絵手紙交換等のアイキャンの活動を紹介しました。新型コロナウイルスの影響から、事務所訪問ではなくスカイプでの受け入れとなりました。

参加者は「学生がボランティア活動に興味をもってもらえるような記事にしていきたい。」と意気込みを語ってくれました。